被爆78年

8・6キリスト者平和の祈り 式次第

被爆証言:切明千枝子

司 式 :月下星志 (日本基督教団広島東部教会牧師)

奏 楽 : 大代 恵 (日本基督教団広島流川教会オルガニスト)



日時:2023年8月6日(金)14時~15時

場所:日本基督教団広島流川教会礼拝堂

開会挨拶 肥塚侾司(カトリック光教会司祭)

「平和の鐘」の点鐘

ヒロシマ、ナガサキの被爆者が負わされた重荷を、主が共に担ってくださり、世界で 被爆者が二度と生み出されないようにと祈りつつ鐘をつきます。

点鐘者:前田瑞枝(被爆者を代表して)

平和の主を信じる群れとして、誠実に歴史と向き合い、平和を実現するために世界の 教会と祈りを合わせ、あなたを信じて歩む決意のしるしとして、被爆を今へと伝える この鐘をつきます。

点鐘者:大月純子(被爆二世を代表して)

原子爆弾により、そして戦争によって多くの人々の命が奪われました。愛する者を失った全ての人のうえに主の慰めと平安があるように祈りつつ鐘をつきます。

点鐘者:吉澤和海(若者を代表して)

私たちが二度と核兵器の使用を許さず、主が平和な未来を子どもたちに備えてくださることを信じて、この鐘をつきます。

点鐘者:こどもたち

献 水 (4ページ) 島村眞知子(日本基督教団広島牛田教会員・被爆2世)

前 奏 「ひとよ、汝が罪の」【讃美歌21 294】(J.S.バッハ)

上から下へ動かす

賛 美 「キリストの平和」(1節を手話で2回) 詞・曲:塩田 泉

1. キリストの平和が わたしたちの心の すみずみまで ゆきわたりますように



動作を2回

とりなしの祈り

- 司会者わたしたちは自然と人間、真理の創り主である神に祈ります。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。
- 司会者 それは、個人の間、または国家の間でなされた、すべての戦争と暴力の犠牲 者たちの声だからです。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。
- **司会者** それは人々が武器と戦争に信頼をおくとき、一番に犠牲者として苦しみ、また苦しむであろうすべての子どもたちの声だからです。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。
- **司会者** わたしたちは、主がすべての人間の心の中に、平和の知恵と正義の力と喜び を注いでくださるよう、祈ります。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。
- 司会者 わたしたちはすべての国、またすべての時代において戦争を望まず、常に喜んで平和の道を歩む無数の人々にかわって、話しているからです。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。
- 司会者 わたしたちがいつも憎しみには愛、不正には正義への全き献身、貧困には自 分を分かち合い、戦争には平和をもってこたえることができるよう、英知と 勇気をお与えください。
- 一 同 神よ、わたしたちの声を聞いてください。そして、この世にあなたの終わりなき平和をお与えください。

1981年ヨハネ・パウロ2世広島「平和アピール」より

聖書 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず もはや戦うことを学ばない。」イザヤ書 2章4節

被爆証言 「再びの戦争よ あるな!」 切明千枝子さん

賛 美 讃美歌21 425番「こすずめもくじらも」(6ページ)

献 金 「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」のため献げます。 (献金は、礼拝堂入り口の献金箱にお献げください。)

主の祈り

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日も お与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン

(聖公会/ローマ・カトリック共通)

祝 福 立野泰博(日本福音ルーテル広島教会牧師)

神の愛が私たちを包んでくださいます。

神の真実が私たちを支えてくださいます。

神の平和が私たちの心を満たしてくださいます。

父と、子と、聖霊のみ名によって。

アーメン

派遣

司式:2023年「8.6キリスト者平和の祈り」を終わります。

行きましょう。主の平和のうちに。

仕えましょう、主と隣人に。

会衆:神に感謝します。

後 奏 「主よ、私がここにおります 私を遣わして下さい」(J.カーター)

挨 拶 永野拓也(日本聖公会広島復活教会牧師)

報告

切明千枝子さんプロフィール

1929年広島市に生まれる。第二県女4年生の15歳の時に、原子爆弾の被害に遭う。 85歳から広島県被団協の"被爆を語り継ぐ会"で被爆体験の証言を始め、

93歳になった今日も広島平和文化センターの委嘱証言者として活動をつづける。

被爆証言集「ヒロシマを生き抜いて」「ヒロシマを生き抜いてPART2」がある。

「8・6キリスト者平和の祈り」について

「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしも あなたがたを遣わす。」(ヨハネによる福音書20章21節)

「8月6日には、広島のどこかの教会で、キリスト者が、平和を祈るために、集まっている。世の終わりまで。」

これが、「8・6キリスト者平和の祈り」の願いです。

被爆60年の2005年に、広島のキリスト者の有志によって始められました。

1945年8月6日は、わたしたち人間が決して忘れてはならない日です。この日 8時15分、アメリカによる原子爆弾の爆撃により、広島では多くの命が奪われ、78年 たった今もなお、被爆者は「原爆後障害」などで苦しみ続けています。

その経験から、「核と人類は共存できない」ことを実感し、「ノーモア・ヒロシマ」、 「過ちは繰返しませぬから」と誓い、平和の使徒としてこの世界に派遣されている キリスト者の使命を、強く心に刻む日としなければなりません。

「ヒロシマを考えることは、平和に対して責任をになうことです。」

(To remember Hiroshima is to commit oneself for peace.)(ヨハネ・パウロ二世)

「献水」について

1945年8月6日午前8時15分、アメリカ軍の原子爆弾の炸裂により、爆心地付近の地上の温度は、3000度~4000度だったと言われています。多くの人が「水を下さい」「一口でいいから、水をごっくり飲ませて下さい」と水を求めながら天に召されていきました。家族や周りの人たちは、当時「重傷の人に水を飲ませてはいけない」と教わっていたため、「なんとか助けてあげたい」「この人を死なせたくないと」いう思いから、水を飲ませてあげたくても、飲ませてあげることができませんでした。原子爆弾が炸裂したことによる熱線の被害は、水を一口飲ませたからと言って、助かる助からないかというものではありませんでした。それだけ、核の被害は甚大だったのです。

重傷を負った家族が天に召された後、残された家族や周りの人は、「あのとき、一口だけでも飲ませてあげれば良かった」という後悔の念を抱き続けてきました。

そのため、広島では、あの日、天に召された被爆者の方々に「どうぞ水を飲んで下さい」という思いを込めて、慰霊式や8・6の平和式典、折々に慰霊碑に、「献水」が行われています。

そこで、この「8・6キリスト者平和の祈り」においても、「献水」を行います。 どうぞ、心をあわせて下さい。

「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」について

1967年3月26日、復活主日に鈴木正久議長名で「第二次大戦下における日本 基督教団の責任についての告白」(以後、「戦責告白」と記す)が発表されました。この 戦責告白は、その後の平和運動の方向を決定する重大な告白となりました。

過去のキリスト教界が軍国主義による侵略戦争に協力、加担し賛美さえした罪を告 白することなしに、戦後の平和への活動をすることは許されないと告白したのです。

広島のキリスト者はこのことを深刻に受け止め、戦責告白に基づく平和運動を推進することを決意したのです。その中で原爆孤老のための養護老人ホーム「清鈴園」建設が計画実施されることとなるのです。

西中国教区(広島、山口、島根)の他に「戦責告白」の実質化に取り組んだのが日本キリスト教団中部教区(富山、石川、福井、愛知、岐阜、三重)です。中部教区では1969年~1973年、愛知・岐阜・三重地区社会部共催で清鈴園建設募金運動に参加。1974年になって、中部教区社会部より代表が来広し、当時「原爆スラム」と呼ばれた地域を視察、金信煥牧師(在日大韓基督教会広島教会)から在韓被爆者の悲惨な状態を聞き、「戦責告白」の精神に立って支援したいという申し出を受け「広島キリスト者平和の会」のメンバーが中心となって「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会」が発足、実務を担当するために「現地5人委員会」が組織されたのです。以来、47年間、広島に在住の韓国人・朝鮮人被爆者の支援活動を続けています。

1974年以降、中部教区では「平和聖日」(8月第1主日)の献金を「在広韓国人・朝鮮人被爆者」の支援のために、と呼びかけて今年で47回目となります。これまでの募金の中心は中部教区ですが、賛同した教会、団体等の献金で被爆者支援を継続しています。



こすずめも、くじらも



- 1. こすずめも、くじらも、空の星も、 造られた方を たたえて歌う。
- 大地震も、嵐も、稲光も、
 造られた方に 助けを求める
- 3. 七色に輝く 虹と十字架、 空の墓を見て、感謝献げよう。
- 4. 飢え、渇き、病と、浪費の世に、 造られたものは いやし求める。
- 5. 隣人と敵との へだてはなく 神は愛と平和 お与えになる。
- 6. いつの世もおられる 愛の神は、 未来の世代の 生きる喜び。



◎当日の集会の音源を終了後すぐに広島流川教会のホームページ上にアップします。「広島流川教会」で検索いただき、「新着情報」から再生いただくか、スマホでQRコードを読み込んでください。→